

平成 25 年 7 月 14 日 (日) 施行

## 第 171 回 全経簿記能力検定試験 1 級 工業簿記 解説

### 第 1 問

1. 原価計算基準 第一章 二 原価計算制度
2. 原価計算基準 第二章 二八 副産物の処理と評価
3. 原価計算基準 第二章 二九 連産品の計算

### 第 2 問

1. 第 1 回～第 3 回の素材購入高の合計は ¥1,290,000 (2,000 個) なので、単価は  
 $\text{¥1,290,000} / 2,000 \text{ 個} = @ \text{¥645}$   
 実際消費量は 1,500 個なので、消費価格は  
 $@ \text{¥645} \times 1,500 \text{ 個} = \text{¥967,500}$

2. 間接工の賃金なので製造間接費である

当月総支給額	¥1,732,000	前月末未払額	¥425,000
当月末未払額	¥438,000	当月消費額	

当月実際賃金消費額 = ¥1,732,000 + ¥438,000 - ¥425,000 = ¥1,745,000

3. 第 2 工程仕掛品 ¥1,063,000  
 ⇒ 製品 ¥1,036,000  
 ⇒ 副産物 ¥27,000
4. 素材 ¥1,180,000  
 ⇒ A 組仕掛品 ¥572,000  
 ⇒ B 組仕掛品 ¥514,000  
 ⇒ 組間接費 ¥94,000
5. 作業時間差異 = (実際作業時間 - 標準作業時間) × 標準賃率  
 = (1,215 時間 - 1,200 時間) × @ ¥1,060 = ¥15,900 (不利 (借方) 差異)
6. 工場と本社の仕訳は以下のとおりである。工場側の仕訳が解答となる。

(本社)	(借)	工	場	1,054,000	(貸)	未払賃金給料	1,054,000		
(工場)	(借)	賃	金	給	料	1,054,000	(貸) 本	社	1,054,000

### 第3問

		仕掛品			
		(先入先出法)			
①	¥35,700	700			
②	¥22,400	(280)	8,000		¥1,048,000
③	¥437,400	8,100	200		¥9,100
④	¥616,500	(8,220)	600	⑤	¥32,400
			(300)	⑥	¥22,500
					¥54,900

先入先出法により、月末仕掛品について

$$\text{材料費単価} = \frac{\text{¥}437,400}{8,100} = \text{@ ¥}54$$

$$\text{加工費単価} = \frac{\text{¥}616,000}{8,220} = \text{@ ¥}75$$

月末仕掛品の評価は

$$\text{材料費} \quad \text{@ ¥}54 \times 600 \text{ 個} = \text{¥}32,400$$

$$\text{加工費} \quad \text{@ ¥}75 \times 300 \text{ 個} = \text{¥}22,500$$

よって製造原価は

$$(\text{¥}35,700 + \text{¥}22,400) + (\text{¥}437,400 + \text{¥}616,500) - (\text{¥}32,400 + \text{¥}22,500) \\ = \text{¥}1,057,100$$

解答用紙より、副産物の評価額は¥9,100なので、完成品原価は

$$\text{¥}1,057,100 - \text{¥}9,100 = \text{¥}1,048,000$$

### 第4問

1. 月初製品繰越高 ¥1,386,000 → 製品勘定の前月繰越
2. 月初仕掛品原価 ¥173,000 → 仕掛品勘定の前月繰越および指図書別原価計算表の指図書 #8
3. 材料費
  - 直接材料費 → 指図書別原価計算表「直接材料費」
  - 間接材料費 → 部門別振替表「間接材料費」(部門共通費は6へ)
4. 労務費
  - 直接労務費 → 指図書別原価計算表「直接労務費」
  - 間接労務費 → 部門別振替表「間接労務費」(部門共通費は6へ)
5. 経費
  - 直接経費 → 指図書別原価計算表「直接経費」
  - 間接経費 → 部門別振替表「間接経費」(部門共通費は6へ)
6. 部門共通費の配賦
  - 部門共通費は ¥224,300 + ¥178,300 + ¥191,400 = ¥594,000

これを問題指定の割合で配賦すると以下のとおり

	第1製造部門	第2製造部門	A補助部門	B補助部門
部門共通費	¥207,900	¥237,600	¥89,100	¥59,400

→ 部門費振替表「部門共通費配賦額」

### 7. 作業くず

指図書別原価計算表「作業くず評価額」、部門費振替表「作業くず評価額」

### 8. 製造部門への補助部門費の配賦

部門費振替表の差引計より、A補助部門費は¥244,000、B補助部門費は¥230,000

これを問題指定の割合で配賦すると以下のとおり

	第1製造部門	第2製造部門
A補助部門費	¥146,400	¥97,600
B補助部門費	¥103,500	¥126,500

→ 部門費振替表「A補助部門費」「B補助部門費」

(借) 第1製造部門費	146,400	(貸) A補助部門費	244,000
第2製造部門費	97,600		
(借) 第1製造部門費	103,500	(貸) B補助部門費	230,000
第2製造部門費	126,500		

これにより、部門費振替表の「実際発生額」が計算される。

### 9. 製造指図書への製造部門費の予定配賦額

配賦率は 第1製造部門 ¥14,070,000 / 21,000 時間 = @ ¥670

第2製造部門 ¥10,260,000 / 19,000 時間 = @ ¥540

これを問題指定の時間で配賦すると以下のとおり

	指図書#8	指図書#9	指図書#10	指図書#8-R1
第1製造部門費	¥261,300	¥288,100	¥308,200	¥33,500
第2製造部門費	¥280,800	¥270,000	¥243,000	¥21,600

→ 指図書別原価計算表「第1製造部門費」「第2製造部門費」

以上より、第1製造部門の予定配賦額は¥891,100、第2製造部門の予定配賦額は¥815,400

これと実際発生額との差異は

第1製造部門… ¥891,100 - ¥883,300 = ¥7,800 (有利差異)

第2製造部門… ¥815,400 - ¥820,700 = △ ¥5,300 (不利差異)

(借) 第1製造部門費	7,800	(貸) 部門費差異	7,800
(借) 部門費差異	5,300	(貸) 第2製造部門費	5,300

### 10. 製造指図書#8と#9の完成

問題文より、月末には補修指図書#8-R1が完成し、製造指図書#8に賦課する。

(借) 仕掛品	105,600	(貸) 仕掛品	105,600
---------	---------	---------	---------

→ 指図書別原価計算表「補修費」

作業くず評価額を控除し、差引計を計算する。

製造指図書#8と#9が完成したので、指図書別原価計算表より、

¥1,533,700 + ¥1,237,400 = ¥2,771,100 を仕掛品から製品に振り替える。

(借) 製品	2,771,100	(貸) 仕掛品	2,771,100
--------	-----------	---------	-----------

### 11. 製品の引き渡し

1より、指図書#7の製品原価は¥1,386,000

また、指図書別原価計算表より指図書#8の製品原価は¥1,533,700

¥1,386,000+¥1,533,700=¥2,919,700を製品から売上原価に振り替える。

(借) 売上原価	2,919,700	(貸) 製品	2,919,700
----------	-----------	--------	-----------